古收月詣集

ハ 5
1398

明治廿九年九月五日
帝国図書館長
印

帝国図書館
和漢
1398
巻

萬句合　巻之八

秋

七月

七月三日十三日

- 見えぬ君の振ひ袖也生身魂
- 口笑にもする叫も離の餅を捨
- 前と稜今孝を此秋新之孝
- 盆の名も海と千ぬ切の定び
- 毎迎く母の笠顔
- 義入り出ル夕涼
- おそろしや雲も佛の

武列河也紅
唐列芦葉紅
綿列生叫紅
武列云来紅
柳原綠紅
目黒雲赤紅
片町盆末紅

九月

- 秋の人うそも秋よりの秋
- 秋ぬ二ついの悩をこえ
- 木ゝくの実人のち
- 燈籠よ暗ひやりて
- ○然代の出をうろ社
- ○そ多くハろ社
- △涙えの弦るハろ
- 出ル私とろ
- △ふしらて出や家
- △秋ろくあそろ
- △ろくろ死と咲ろ
- △寒ろ死と咲ろ
- 指さまてあ河さまに
- ○ろ一ぬそもりろ
- ○河ろそもりろ
- △寒ろ咲ろ
- △寒ろ咲ろ
- △寒ろ咲

辰正月下旬 万句合 亜庵六千五百韻 [illegible]

収月

辰十二月三日

万句合 雪見屋八十番

収月

△取ちらし鰹の下かく
×麦酒てのみ富者の赤ら顔
○かつら屋まへ八ツ半時分
煙のごとく細き雨降出る
△梅のつぼみもまだ半開
春秋浮てだんだら染
△七ツ新地稽古
○踊師匠の座敷にて食
×盃こそこそくりの
○げた屋の件ごとく
注文まだ出ぬ内に
延引御ゆるし

四月市やしき組
呉服矢車組
麹町一丁目大傳組
本石井角三千房
本町三丁目大和組
本石井角二千房
雪月市やしき組
注列多治組
呉服西本組

辰閏十月　廿三日晴　収月

△鳥ごえも
今ハ夫程
籬ぬきも一ト
君も来ぬ
明ぬ
地主
○菊を愚
○乳
歌俊
○何
○
仲人
小間物
常
△
○待
○
○待

本石井角二千房
下谷大和組
南伝馬町八ツ目組
新大橋錦組
本石井角二千房
小間物町笠原組
本町青柳
井筒屋
本石井角二千房
下谷大和組
四日市やしき組
多賀谷

鶴岡八幡宮 奉納 万句合 発句 四千五百余章

収月

延寿
（左一）多武峯 ○ 楊川 ○ 新潟 ○ 平野 ○
（右一）○ 蓮葉 ○ 此 ○ 世 ○ 浦 ○ 沖 ○ 陽 ○
（左二）×帯 ○ 春 ○ 雪 ○ 友 ○ 延 ○ 松 ○ 江戸 ○ 京 ○ 井筒 ○ 千房 ○
（右二）×深 ○ 名 ○ 色 ○ 友 ○ 延 ○ 松 ○ 江戸 ○ 京 ○ 井筒 ○ 千房 ○
（左三）○ 紫 ○ 色 ○ 花 ○ 春 ○ 雪 ○ 友 ○ 延 ○ 松 ○ 江戸 ○ 京 ○
（右三）○ 花 ○ 初 ○ 春 ○ 雪 ○ 友 ○ 延 ○ 松 ○ 江戸 ○ 京 ○
（左四）○ 初 ○ 春 ○ 雪 ○ 友 ○ 延 ○ 松 ○ 江戸 ○ 京 ○
（右四）×血 ○ 雪 ○ 友 ○ 延 ○ 松 ○ 江戸 ○ 京 ○

延寿

（左一）多武峯 ○ 楊川 ○ 新潟 ○ 平野 ○
（右一）○ 蓮葉 ○ 此 ○ 世 ○ 浦 ○ 沖 ○ 陽 ○

辰壬十月三日

万句合　春慶丑千八百六十余筆

收月

右

奉納

續

土用十日
万句合　　寿連古千八百六十篭

霜月

野州麻葉組
房州芦葉組
四日市八海組
武州正木組
武州若宗鷹組
本石井筒三千房
二ノ酉所八枝組

○月ごとに寄合ござ候屠蘇袋
○先会乃至の上歩行
○寄金　是非とり入むかしい
△代官所さま方も二ノ酉
○名人番付にて大さわぎ
△係通ひ候男うつくしめ
△世乃かし鳶の方へさし掛ケ

出来秋八雲ヲ今度も勝度　柳原叶　紅

△流勝ヲ同一花くも勝月向　四月市八湯紅

花咲ハそのむ夢ヲ比く秋の末　歌書袁ハ春駒紅

業指と入くひそ打ろ白髪の吼　雲谷坂町清流紅

○笑しふ歌ヲ一家の面ヲ活　本ハ井筒三千房

家内喧嘩ての客ヲ数入第　二ノ町八松紅

張つめてそくも女れ指ヲ　行町々ヲ木紅

白彩ヲ群々養ホそ　下谷松下町玉緑紅

長ク〳〵

（寛政十二年五月廿五日迄
文政元年十二月廿五日迄）

万句合　あそ庵二千九吟

冠者不出坂客

収月

かくらそ　ヲ
●三帝イ　ヲ
▲行ア　お
■ふそくり　ク
Hそひく　の
〃張ル　人

侍に出　襟ハ牡丹ヲ　ヲ
公家ヲ　ん
悦ひそ述　庭持ヲ
●業平や　ヲ
△ふ　ヲ
△長ふ　ヲ
●ふの合　ヲ
△意かふ　ヲ
△ふ日そ　ヲ
△ふ　ヲ
ヲ　ヲ

庚子　正木紅
月黒登志和紅
本ハ井筒三千房
四月市八湯紅
野刈　麻葉紅
食刈　花京鶯紅
房刈　雪笑紅
ふ伝町川楊紅
面八千房八雪酒紅
柳原叶紅

万朔合算百廿三千三百六十盛

収月

（欠）

（欠）

（欠）

△山仕の者やまびこ二物称を
関救うと走るうりの
○きゝ
○高中房狩りと称又乃狗葉用
△蜘ゆるを称くまぬる乃
△門狩やう係乃
右を雲乃を用乃
○本貝乃ふ別ゆ
ほりまいともほを
なぶきりて
△称くも想像をうこ
○トはの称ゆをゆ
○敵き話ゆくハ
△祖又孤も無も指
○日和かうや称イが万日降うとう
△門締をかなり乃
後今十ゆ狩を
五称

△称ゆをうこ
○トはの称ゆをゆ
○敵き話ゆくハ
△祖又孤も無も指
○日和かうや称イが万日降うとう
△門締をかなり乃

九月 万令合 安建三年九

そうそをてすす
○トはうゆ
△ちうゆ

初納
△称をかり初て表作
おゐと家き納よる
その称うへ乃称を対ゆ
加解て本の葉ちし
△片仮名ノ字ノ十リ
△雨ゆ咲ゆり散りり
○新酒うう売のまう
○はゆゆ少き色竪川
○高とう家の外多
曲を載手多返空
△凡ゆう駅う金用
年ゆを初のうつ
○芽市うう換ンちう
○ゆへのう称半高
○金山う当うゆ
陽うゆよ学ゆ

紀州宇宙紅
本今井筒二千万
新鶴鶴亭統紅
二ノ町八称紅
卜谷い乃紅
亀宇下至府紅
外列玉ノ井紅
四谷大事和鳴紅
深川英紅
南八十姫八重紅
辰ノ口九曜紅
四月市中一房紅
房列芽多紅
うう乃陸小高紅
二ノ町八称紅
神田錦町松文木紅
虎御門未牡丹紅

収月

九月
万句合　安建二千二百十余吟

收月

十月廿九日

万句合　西庵会

千二百七十筆

収月

十月廿日
万句合　勢連六千九百余筆

十月二日
万句会　旭庵三十八百八十六叟

のこころを
○多メイ事
家ノ

牧月

○乳父
沖代う
○細工の
まつ
風呂
○町
○菊の
○枝
○意
句
○大
そ
実
おと
○き
○封

新
三
お
元
乃
三
四

○待乳へ配当温泉のみちを
呼らるそれなれどもくるしからぬ
○蕎酒の中と親よ付き
蕎側へ来てこれを
○名が滅相校又四
○出るそれそれ
此の次き小菊
人くの苦労
○質の手仲際とそ
○そすいもと笑
永川へそ向川や
多嶋今く松
ゆるとを解
○切書状
○ぐそて、八
○残かの
酒向ちく
茶を飲

前会延
代表
らそ

芝田町やそと紅
本々井菊之千房
今
南八千場八重垣紅
三谷町なの
々々乗筆紅
辰ノ口九曜紅
おりと浦素栄紅
南本下千与紅
本々井菊之千房
新婚物事紅
三河町八橋紅
緋田町町そと紅
堅岩大木之松治紅
芝田町やそと紅
辰ノ口九曜紅

十八日そと

九月廿二日
万句合　地建三千七十一番

○そみ合そ
○そひ待
そりみ

○市そと参
ひくそ
中乃祝イ
○お祭り
ふく待つ
○急ぐ
いけち
○門一会
○化くお
庵癖
○酒とか
かる雑乃
おしそえ

敗月

女六井筒三千房
新婚物事紅
三河町八橋紅
緋田町町そと紅
四日市やし西紅
四谷大木之松治紅
辰ノ口九曜紅
南八丁堀八重垣紅
三谷町なの庵紅
麹町一町目乗筆紅
下谷車坂町横来紅
三谷町なの坊
入未之松治屋
武州四番大松紅

万句合

○千延そ行律う代ろ
△牛るる 物余をさ
○十ヲうらナう 新う 採
むし〳〵 異和う
通一文を
○田舎くハよ
○糸川の岩
○一ぬ乃 我の中
○指 筆へ
○せき 膝
△朔 ま内
△四条 指のやう
○此年 ○
文うくまく
○祇 ろ話
△色み
○四ろ年
卿
○ろ
△上人の
△墓院

十月廿七日 点遅古千三ろ二篇
○めつくしひるけ

十ろ七之篇集
之 汚所 八格紅
なく井筒 三千房
新場 格幸紙紅
なく井筒 三千房
にの名大ま
百八丁張
なく井筒 孤筆
ま院名 おお名幸紅
浅草之所なめ
上別大ろく 八千代紅
云々順 妙紙紅
か新所 隅門紙
無名 田代紅
なく井筒 三千房
上別 大ろく八千代紅
浅草の地内 御名紅
にの名仕ろ所 乱白紅
なく井筒 三千房

にの名仕ろ所 乱白紅
義之別 桐生紅
百八丁張 八生地紅
浅草の地内 物名紅
なく井筒 三千房
之 所 八格紅
新場 格幸紙紅
る倉所 旭前紅
浅草之所なの 坊
末義ろお 名幸紅
下名 いろは紅
なく 紙筆紅
にの名大ま
新場 格幸紙紅
之 所 八格紅
百八丁張 八生地紅
なく井筒 三千房
之
にの名 地所 隅前紅

十月十七日
万句合　　愛處

十月七日
万句合　　安政四年二乃九十二冬

牧月

十月廿二日　万日谷

○私しハ年ゐの思しやづをてもち
　主屠扶く山まりば
○五まくきんを行をくハ相ぞめ
△下女る委任りくまをお誘せ
○長の事をもつえんと名しやまの
○千日ハ　おれん人くろ地かを
　むくくこえ行こまの堂森森
△井屋ハ湯をのめ用々呵らをれ
○旅入ゞ御しさ主流みをこそ
　一日乃華ゞをあ
○ほりくとるるまる
△仰くやくく茶経乃
○ハくるる人心
△十月をのりくハ
　多ものいまくる
○往　柳ハ接ま
　後ゞ空切　述ゞ
　ゝ

○御罪一次の移りを父母の慈悲の味
○指名の私堀引ぶる田苗時
○ふの家の家を当
　民民度国ハ生
○いろはに八一ろを
　湯をまる御ハ
○釣ろ欲ハ
○叶ハ御　徒よ
　一般ろかし
○ろにかるぶ
　利ちもり
○平う人の内納
●赤つくハ
●男ろ元の
○御そしうあ
　ちろかく場こ
　仰のまるくハ人のら別
　汁の家の業を
　十六夜の名を
　枚のろを小
　ゝ

千　此十九吟
　なゝ井旬三千房
　新屋張等郎紅
　二ノ町八橋紅
　四ツ谷大木戸杉張紅
　神田ゟ雨ろろ紅
　下谷イ口ハ紅
　新屋張等郎紅
　なゝ井旬三千三房
　四日市やー紅
　武州田ゟ大橋紅
　辰ノ口九曜紅
　二ノ町八橋紅
　なゝ井旬三千房
　新屋張等郎紅
　なゝ井旬三千房
　芝田町ゟり紅
　四日市中ま紅
　毛穴下ゟ月紅
　新張等郎紅
　南ゟ木千る紅
　辰ノ口九ろ紅
　なゝ井旬三千房

収月

　此ゟ大木戸杉張紅
　東八丁堀八ゟ紅
　二ノ町八橋紅
　生
　なゝ井旬三千房
　生
　千住　大橋紅
　陸奥三ゟ町ゟの房
　え ゟ紙 吉柳紅
　新張場等郎紅
　あ名町 山吹紅
　古々 顔 弥郎紅
　ロの名場町 張郎紅
　ロの名大木戸杉張紅
　ロの名佛ゟ町ゟ紅
　熊谷　紅
　工ノ町ゟくゟ紅

十月二日

万日合

為建久八酉年十二月

のこの世社長
まと十ふりくる
をるましや

足りふる捨ろくあや恨ん
中傷へきくこと
き味の深ひ利益
梅ち式少健さろく
もんろう川也景衣ろ場
神奈の千陽
○ 陰ふかき人所とほし
○ 杜人のうしろ指よ地
仕合八勝の中にろく
後ろうくりとおろくの
○ 陽寄ニ陰係よめ
ろ所ハ敬いろん
ろ陰のさがくろ
○ ぬつあ小陰ろ緑を体
○ 陰まそハ貴金のハ色
○ 松そのや冊次陰ろ
冊次陰の身代か
○ 又ろ奥のまとそ
陰をろ陰ろ
陰ひろハ松
○ ろいろろ

千三十一日金

新陰陽寺紙紙

之の町八橋紙
千百三十五
なく井筒二千房
四谷大木戸松陽紙
四日市四一陽紙
辰ノ口九日生
なく井筒二千房
新陰陽寺紙紙
下谷いろは
なく井筒二千房
新陰陽寺紙紙

仝

芝田町四丁目
車屋日吉大橋紙
ろ行町八橋紙
なく井筒二千房
おれ之浦寺紙紙
四日市四
陰紙
麹町一丁目三軒紙
南の丁屋八王紙紙
半迄之外お仝

收月

●様ニ御ざ候ハ
陰うけ神ふハいふ
○ 陰ふ舞つろく
○ 七歩揃ろ二陰
長ろいろもおろ
たくろものと
○ 本脈のねろ
○ 此度ハ
○ 銀箔代いろ
○ 割りの尾と
○ 如ろ角切て
ろまるのひ
うろさく

○ 傘寿の切布ハ
○ ろ陽ろ梅よ天
ちのさくて
○ 大忌の袋につら
○ 新仏ハ
○ 古文と
具ろハ秋の
○ 新ろく
仏の石仏
悔ろく
切ろ

雄町 幸国 兵衛紙
南八丁堀八王紙紙
なく井筒二千房
陽ろろ町ろろ紙
下谷いろは
お列ろ浦 幸栄紙
ろ行町 なめ
芝田町 ろく
南八丁堀八王紙紙
なく井筒二千房

仝

新陰陽寺紙紙
ろ行町八橋紙
弁迄之外小仝紙
南ノ陰つ杜冊紙
出羽なく庄番陰紙
毛布ろ新さろ神紙
武州鶴ろ陽紙
之行町八橋紙
新陰陽寺紙紙

仝

なく井筒二千房
四谷伝町陰紙紙
四日市四
辰ノ口九日生
なく井筒二千房
おれ之浦寺紙紙
四日市四
陰紙

十月廿二日

万句合　　梅建七千本台十六筆

　　番員五十五
　　枚行二枚

　　收月

一点の依怙なうごかぬ情ハ
岡西城守殿御清書
○後引き数根もそろひ
勿論そろひもそろひ
○弓勝の清そ
　　那須甲斐守
宮うくしてハ御組
○都うゐ衣紋
　　大高うゐ
○姑の角ハ
○糸引の雨のそ
生き通ふ

二千八筆
　　本石井筒三千房
　　新堀端孝助組
千二百三十筆
　　新堀端孝助組
　　三河町八橋組
○糸引の雨のそ
　　屋ノ口九軍組
　　新堀端孝助組
　　芝田町四丁目組
　　三河町八橋組
　　新堀端孝助組
　　四ツ谷大番組
　　四月帝門前組
　　鄙ノ者
　　竜宮本所組
　　四ツ谷坂町住吉組
　　住吉八橋ノ雨

本石井筒三千房
　　新堀端孝助組
　　虎ノ門牡丹組
　　出羽本庄壱岐組
　　壱八ツ屋八ツ鉢組
本石井筒三千房
　　〃
　　〃
　　三ツ目御
　　先ノ雨
　　下宮ノ雨
　　屋ノ口九軍組
　　新堀端孝助組
　　毛利下屋敷組
　　芝田町四丁目組
　　三河町八橋組
　　新堀端孝助組
　　四ツ谷大番組
　　四月帝門前組
　　鄙ノ者
　　竜宮本所組
　　四ツ谷坂町住吉組
　　住吉八橋ノ雨

土音句　　五百余唫

収月

万句合 碧梧桐三千余盆

ごこもかし
○足音こりの梨
△さくら盛を通る
●しゐのうらの
又ゑぬかやうの
ロをあこのなし

收月

●葉ざくら風人うつる大津馬　百三十七　京町うつる紅
○呵る人よ屁をひる合歓の会　百三十一　千住松紅
又後せい所山の移香　百三十　八王子町うつる紅
●枝うつり門よせやくり栗を拾　百二十　狐町桐壷
雨よ小栗を拾皆々　百十八　南町一万葉集
い候後の縁りハいつもお野月　百　田町平萬
●笠後宗の髪ハ浮世の通り　百　まりも安之紅
●袈裟衣着さ猿の涙　百　中ノ町風紅
又如何ても光ル　百　竹地若葉紅
●ふゆうらの　百　揚や町若葉紅
又そ後ふ半うり　百　中ノ町西葉紅
ロうつるのなし　八十　猿屋町歌仙紅
　五十六
月黒登売紅
嫁別芦葉紅
猿別宇宙紅
野別麻葉紅
なく井筒三千房
之助町八傳紅
葉下旬月紅
四月市中一風紅
新堀鶏子紅

女中流八悪人ノ方ヨリ来ル紙
ニテ包ミ□□ト封シ表ニ男七ノ
□名代ヤク孫八郎殿ト書帰
業亀井戸ノ娘ヲ招ク事ヲ
△引出ノ第八ヲ探シ□□
□程ヲ荷ヒ八ヒセヘヌ名
▽還信セヨ□ク無本ノ
○若ハ□□ヲ□ク当ル
●ヲ忍中三日ヲ孫八破
殺ヘヨ名ノ
先敗ノ人ノ
▽服ヨ人ヤヲノ
○原相カヲ
△ヲ
●返ヘ

子十二月六日至五月九日

万句合 当座三ヶ筆鑑

にこやうる春りん
○むらいそをれ
△ゆそかうり
●返ヘヤヲ

收月

□□ノ□□

賣ヲ□ヲ孫ヲ□□
●ヲ紙ヲ上給ノ土ヲ□□
ヲ餅ヲ務所人ノ
△年ヲ□ヲ数迎ヘ
△磐石ノ屠蘇ヲ黄ヲ
ヲ紙ヲ□ヲ□ヲ
化ヲ□ヲ越川ヲ
○ヲ報ヲ黄ヲ
△白ヲ□日ノ
入船ノヲ□
●大名ノヲ□
□ヲ□ヲ
店借ヲ□ノ
●比芝ヲ□
ヲ□ヲ

野列二組麻裏紙
縦列ヲ富紙
房列芦紫紙
ヤヶ井菊二手房
二ノ町八橋紙
下総印西米廣紙
ヲヲ□ヲ月紙
月名常盤紙
四日市八鳴紙
相列二浦素栄紙
ヤヶ井八重垣紙
□田安世絶紙
彩房鴻巣紙
四ツ谷松鶴紙
二ノ町八橋紙

牧月

△七月乃空も曇るとも
とゝ月を雨夜の
扇リゝや二ツ川の
紙ぎぬハ松たのまれ
持くる雨てまたやまぬ
。竹するのまのうきぬのハ
△未だくもりのひん
△女ごとやそうまん
△松のうちのこゝ
石剣の尾根くゝを
△伯母の中洛て
。松師の年ハまつく
上よりたゝ
毎月釈ハ
浅下鳴りや
ちかきそ
△死暇し仕
△竹の出るけや雨雨
×そ松女の
△指をうハ松白切
△浪ノ
△横かして

東八ツ八重垣紙
田安世能紙
所名紙
武行紙
桐引二浦素堂紙
紙行素堂紙
深川素堂紙
深川八幡前紙
三月引素堂紙
下谷松前紙
元禄井明紙
新坂紙
雨八丁目八ツ
今井の月
三ツ川
野引
芝三田雪堂紙
四日市中
大久保紙
勇助紙
庵引

万句合　八月五日

万慶千百九十筆

ゝ

ゝ

ゝ

一盃を傾くるも後世の月

△不川の螢を京洛に聞くも哀れ

○盃下の其の性や蛍狩

向柳原松葉大一紅

都系新橋通十銘

初もみぢ如雨露たがつて紅さす

絢爛とたがつて紅さす

○下谷と云ふも哀れ

深川蓑房紅

二口くどりおれのもどりかな

△牀取りその名姫とや称すべき

小挑灯を下げて也

四ツ市中一統紅

○小挑灯を下げて也

後庵東ル十九ヶ寺八紙と云ふ

西郷

万句合 西庵六千句

中のよい事

○なつそさまじ

△ミしくの事

△猿の目を何の縁起で紅

○密〳〵の云ふもの

△紀音のみ内ちやものかり

紙鳶をおろすはもう文帰つき

△京ほの東は秋

いろ〳〵への歌も

△下つ足術ゞ抱き合ひ

○ちやもちやき

○太鼓の作ふも一ト つ

○なの鳥くは鳴くのくゝ

まげ〳〵ふ暗をし

○鄙くもの内地

○紅そう内地

△為れ飲ほ

天下ちくに

かんそうて

野列二名麻葉紅

おさこの下を月紅

三の所八橋紅

房列 芦繁紅

月黒谷豆右紅

南八千塚世紅

下総下西末原紅

四ツ谷雪芳紅

四ツ市中海紅

相列 三郎素堂紅

彩霞琴紅

房列 おさのう紅

深川三田 紅

月 紅

収月

△ 一、昨ゟ雨天ニ而
八ツ半時ゟ晴ル
○ 一、九日ゟ十日之晩ハ
△ 一、銀ゟ之雲ニ而天氣
△ 一、雨ニ而之内ハ
一、今夜之内ハ
雨天ニも
降ル
○ 一、武家御
○ 一、昨夜ハ
不二ゟり
△ 一、代ゟり
○ 一、後ゟ
○ 一、雨降ニ
○ 一、夕方ゟ
△ 一、迚
○ 一、下ル
一、昨夜ハ
一、昨夜ハ
一、昨夜ハ

牧月

万句合　安度千ヶ家釜

ちぐさこそをれ

○あはくの事

△おすびあはせ

□すぐる　おくて

人

□

二

水月

目黒登表紙

剃髪を破却出家義絶法師

□五字句の中ゟ　猶半ハ国

紙別ゟ富紙

飲ミ半ゟもさの紙別ゟ薯紙

○唐津焼津の字除ゝ外

野沢麻葉紙

有紀ゟども紙則ゟ井筒三千房

△此句くハ只の釜ゟ　落出ゟ

相別入帳紙

万句合　安度千ヶ家釜

ちぐさこそをれ

○あはくの事

△おすびあはせ

□すぐる　おくて

人

□

二

水月

目黒登表紙

剃髪を破却出家義絶法師

□五字句の中ゟ　猶半ハ国

紙別ゟ富紙

飲ミ半ゟもさの紙別ゟ薯紙

○唐津焼津の字除ゝ外

野沢麻葉紙

有紀ゟども紙則ゟ井筒三千房

△此句くハ只の釜ゟ　落出ゟ

相別入帳紙

万句合勘定四千八百五十番

収月

左中右

寛文九乙酉歳

寛文九乙酉歳

油町

伊賀七

20